

観自在

弘長寺寺報
第十三号
平成十八年
八月

記録集発刊

弘長寺住職 森田裕光

「山陰地方はいつも被害が少なく助かりますね」とお互いが挨拶しあっていた矢先、突如集中豪雨となりました。

お寺も後一日豪雨が続いていけば、堤（農業用水）の決壊が予想でき、危ない状態でした。

冠水等、被害を受けられたお檀家様には大変お気の毒でございました。

謹んでお見舞いもうしあげます。

さて、待望の記録集が発刊の運びとなりました。

予想をはるかに超えた出来映えとなり、まず阿弥陀様に、そしてご縁をいただいた先生方、教育委員会・稲田氏、柏木印刷、護持会役員の皆さま方、お檀家の皆様方に心の底から感謝致します。

誠に有り難うございました。

曹洞宗の御寺院等に送付させていただきましたが、

大変な反響でございました。「大変有り難いお顔だ、是非一度拝登（来山）したい」「曹洞宗の宝だ」「よくぞ一寺院でこの労作を完成された」等々。

現在、今井書店の田和山店にてこの記録集を販売させていただきます。

自分のお寺で作った本が書店に並ぶということ自体が、全く夢の如くでございます。

そして間もなく山陰中央新報に「書評」か「記事」を載せていただくことも決まっております。

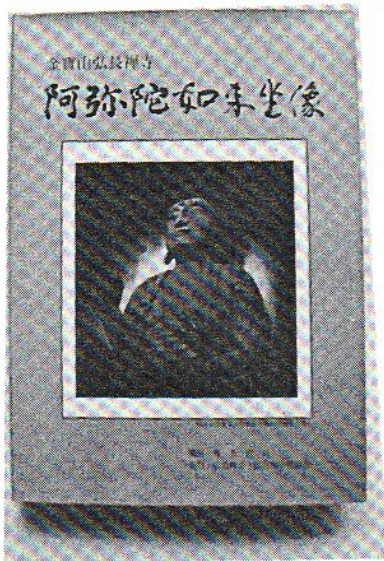
良いことがありすぎると不安を感じることはありませんが、今はその心境です。

ここに至ればもう「十分過ぎます」という思いです。

それ以上を望むのは却って空恐ろしく、「僧侶の知足知らず」に陥ってしまいそうな気もするのです。

後は阿弥陀様におまかせです。

「南無阿弥陀仏」



新しい体制の

発足にあたり

弘長寺護持会
会長 武田民三

突然紫陽花が美しい梅雨が、豪雨の暴れ梅雨となり、たが、災害をもたらしまし庭は、如何でしたでしょうか、か、お見舞いを申し上げます。

さて、ご案内のよう今年度は護持会の役員改選の五月二十七日に開催され、地区委員会において、新役員選出があり、新役員体制が発足いたしました。

そのなかで、不肖私こと委員各位のご推挙を賜り、再度会長理事職に就任させていただきました。

これから弘長寺護持会に期待される課題は、山に重かつ大なるお山積、し、震える思いで、り、身の震える思いで、り、身の震える思いで、

幸にも方丈様はじめ委

員・役員の皆様のご指導
ご鞭撻を賜りまして、指導力であり、まが、身、力、を重ねて、まが、身、力、を重ねて、まが、身、力、を重ねて、
ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



特に力を込めて進めたい
研修に力を入れ、互の
則、第三の三事業を取り
記、望、阿彌陀如来坐像
様、の録集も、護持会役員
たり、の立派に出で、ま
を、中心に地域社会をも
え、の興隆と発展を期し、
寺の興隆と発展を期し、
い、の興隆と発展を期し、
ご賛同をお願い申し上げます。

仏教では特に「知ること
として示されています。
「知って犯した罪と、知
らずに犯した罪はどちら
が重いか」との禅問答が
あります。例えは「焼
け火箸と知って握ると、
知らずに握ったのでは、
どちらが重傷か。」さて
どちらでしょう。
知らずに握ったほうが
重い火傷をしますね。
「知らずに犯す罪は重
と教えられていたのです。
私たちは、少しでも多
くを、正しく知らねばな
らないと思うのです。

人間、生涯最大の命題
は、「人は何故に生まれ
てきたのか。」「自分
何者か。」を知ることだ
と思っております。

会員相互が、さらなる
命を果たしてまいりま
う。檀家皆さま、役員各位の
ご理解ご協力を切に願
います。

合掌

○ごめんなさい
この一言で
争いは止み
ありがとう
このひとことが
おかげさま
この一言が
心を豊かにする
○こちらから
頭をさげる
こちらから
あいさつする
こちらから
わびる
なんでもこちらから
そうすれば
和やかにいく

お知らせ
お願い

●平成十八年度の棚経の順は、横見地区から始まります。

菅原地区 横見地区 大野地区
谷地区 柳井地区 鏡地区
道地区 寺地区
地区 弘長地区

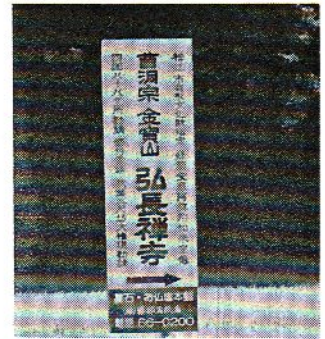
十三朝七時〜十五時迄八月間、行ける所まで。三日

す。十四日は新盆を廻ります。葬儀が発生した場合は、葬儀を優先致します。行いますが、十四日は葬儀は行いません。

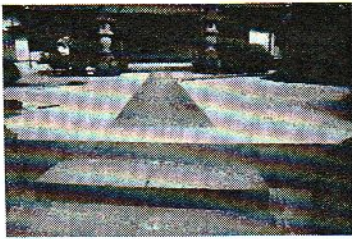
●鏡地区、勝部石材店・屋号、勝部義殿所・り、弘長寺入り口二ケ所に(九号線)旧道ド喜と本谷側)案内板を御喜捨いただきました。案内板は、撤去し、今まただきました。ど板は、腐食や傷みが多かいため、撤去し、お参りされたところ、道に迷った方がお参りされた。で、喜びました。

●境内伽藍等修復事業

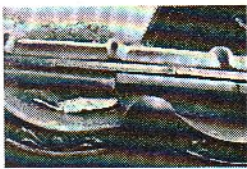
庭に山門入り口正面石橋から前庭に上がる石段の損傷が目立ち、この後、瓦の傷みの進むので、白堀の修復をする予定です。護持会の境内伽藍(本堂)等修繕予算を、阿弥陀堂建立まで張るべく使わないが、役員と総会にて確認する。役員の順次使つてまいります。



弘長寺案内板 (本谷側)



石段修復完了



傷みの進んだ白堀

●大晦日、紅白歌合戦が、終わって、除夜の鐘を撞いてみます。苦提寺の鐘を自分の手で撞いてみませんか。おいしい甘酒を用意してあります。



甘酒を飲んでいただきました。

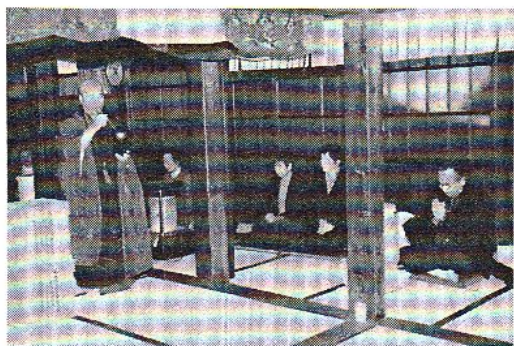


きっと良い年になります。

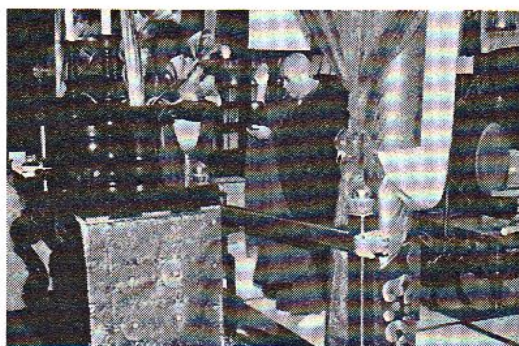
お知らせ

お願い

●お正月三が日は毎朝五時より「大般若転読祈禱」を行っています。どうぞお参り下さい。



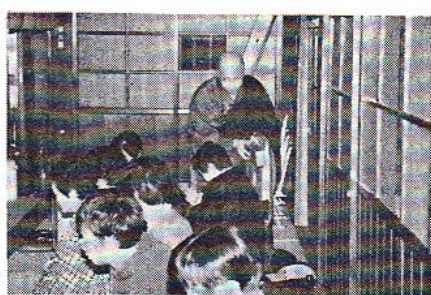
浄道場



洒水



理趣文にておかげを受ける



転読大般若

黒部ダム



伊藤氏



松本城にて、宗務所役職員全員で

●大本山永平寺研修会
本年は永平寺様への参拝研修でございました。教化主事として最後の世話をさせていただきます。当山からの参加者は、浜東の伊藤 芳氏一人でした。一晩だけなのですが、御本山での研修修行は身の引き締まる思いと有り難さで、身心共に充実感を覚えます。来年は総持寺様への参拝です。

登壇奉詠 南こうせつさん



ドーム舞台前にて 住職は役職員(引率)として参加

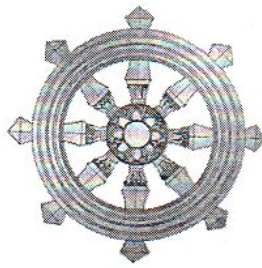
●梅花流全国奉詠大会
北海道月寒ドームで全国から一万一千人が集まりました。当山からは雪組六名全員が参加されました。歌手の南こうせつさん(実家は曹洞宗のお寺)が作詞作曲された新曲が披露され、南さんの「ミニコンサート」で会場が沸きました。新曲は、軽快なアップテンポで若い方にもウケる曲に仕上がっています。

★弘長寺坐禅会（毎月第一木曜日・朝六時より）開設以来、無欠勤で参禅修行をされている木幡氏に寄稿していただきました。

参禅の動機

一区 木幡義則

父は庭掃除が大変好きでした。「居は心に移す」と言われ、掃除をする時心がきれいに洗い落とされる。」と口癖のように、私たちが子供に言い聞かせていた。また、「コップの中の水は、箸で一回かき回しても一回では動かないが、何回も何回もかき回しているうちに回りだしてくる。」



心という言葉は「ころころ」転ぶように、四方八方に動き回るといふ意である」と教えてくれた。本当かどうか未だに真意を調べたことはないが、「ころころ」

が縮まって「ころ」となった、というのは肯かれる。

水のように入れ物によって自由自在に形を変えるのが心である。

私たちは毎日の忙しきによって、かたときも休むことなく心を動かされている。

誰も幸せを求めない者はいない。

幸せは平安な心に宿り、外からの力によって動かされることない心、昨日までの出来事と明日への思い煩いから切り離された自然（じねん）の心がもたらすものではないでしょうか。

昭和三十年代の中ごろ、和辻哲郎の「古寺巡礼」にひかれて、京都・奈良の寺々を歴訪したとき、薬師寺の三尊の前で電撃的衝撃を受けた印象は今でも忘れられない。

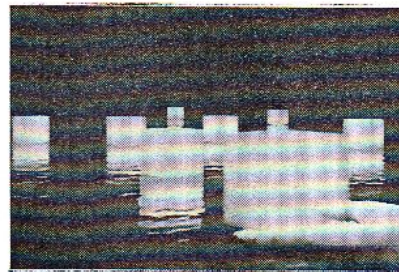
重厚な胸を張り、ゆるぎのない重心が台座をとおして大地に密着し、温なお顔が天に向かつて巨大な座像の上にそり立つ平安な姿は、正に偶像を超えた仏様なのでしょう。

それから半世紀、文明のもの足りた物質的幸せではなくて、平安な「足を知る」渴望は無意

識の隅に宿っていたのでしよう。

たまたま、有線放送で坐禅会の話聞き参加したのが始まりでした。

何時の間にか数年が過ぎてゆきました。



月に一回の坐禅でも良いでしょうか、沢木老師様。

貴方は「泥棒の真似をするものは泥棒だ。」とおっしゃいましたね。

動き出さないコップの水でも、動けばやがて動き出すように、私も只管打坐。

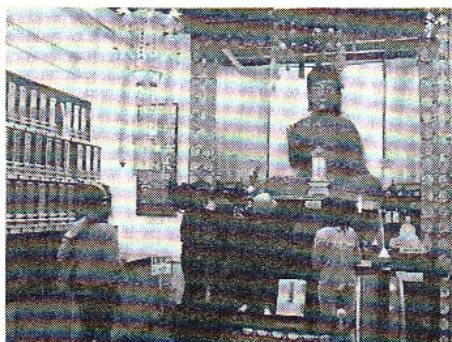
まねでよいから少しでも続けて坐って行きたいと存じます。

どうかお導きください。

合掌

マーブルテレビの取材を受ける

一月二十六日、松江市のケーブルテレビが、宍道町の特集を行いました。松江市内では長期間放映され、多くの方から「テレビを拝見しました。」との声をいただきました。



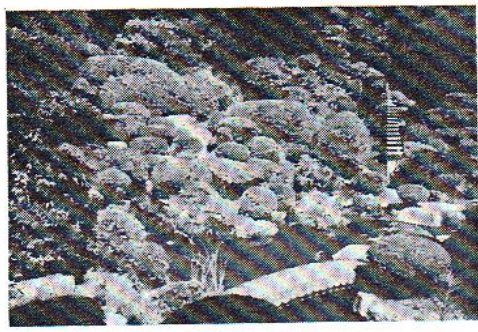
テレビカメラを向けられたのは初めてです



七あ關年な享ジのしてものばら
 「十開でつ十一このしでい読み定方一漢拙
 現六開山ある。一二年のてすみかかなち文僧
 当年からはる。二とから文のてが返ででのんはは
 二もは、一と二の書みみたが、しなく、ふど僧
 世ある。その六三すら二日付は、ちち侶
 二を開三と四一付は、みんかあり
 世をき年と三、日付は、返ぶと
 二を現は頃、三日付は、しん言
 世を現は頃、三日付は、しん言
 二を現は頃、三日付は、しん言

読のその「現当二世」が解
 く仕「と故書弥が「気あかし
 違方の為のこの(資弥が出「實
 つて現記庵の中(料三出「實
 てよ述和庵中に(料三出「實
 は二が尚尚「為現二「庵見貞
 は二が尚尚「為現二「庵見貞
 は二が尚尚「為現二「庵見貞
 は二が尚尚「為現二「庵見貞

て者庵「
 いる也見現穴
 と和貞当道
 読み尚二町
 下に寄世史
 解し進し(資
 積奉故料編)
 する實は



書院 庭園

いと住職は山前、開關
 は百七十年前、開關
 は百七十年前、開關
 は百七十年前、開關
 は百七十年前、開關

積庵在三のめル いべ和て存の
 す見、世「だ。て實私のく尚弥し弟当
 る貞当が亡高庵にはは候の三て子山の
 方和尚二まなく思尚現は、御郎がが二
 私のを世つたて可二か。と御然らに(實
 はにあいばな能世は相るば決庵
 す一るなかり性イ書統間、定庵
 んと故いりながコか有實あし和
 な解實現でい極なる庵え現尚

ろ付後郎 なる意(なく解 解か
 うけの自もら味(寺)く積し碧
 か加署身し、ないである)は、か
 える名で、現、どう寄、家
 するにも、当、し、進、現
 筆で現な二世、者、当
 は当ら二世、も、本、二
 ない二ば、が、現、人、目
 だと最、弥、三、當、代、目

にたれた實 相するの接偉 てい今お 感かたか
 相出た庵所 続し中伝大次 い切かお じりつら
 続家法和尚 させ者を受から すべき私ども 切つた良と じると今崇
 さ者がを尚 せたい出た後 摘もの子孫 だ、追善供 追善供 追善供
 たい。らそ ぎ、相承で、 切をあ 養をい、が、 養をい、が、 養をい、が、
 其の勝承さ、 切をあ 養をい、が、 養をい、が、 養をい、が、
 者れさ、 切をあ 養をい、が、 養をい、が、 養をい、が、



如何受け入れられるのだが、





自分の親族から實庵和尚
 の法を嗣ぐものと實庵和尚
 の上までいはい切つてら
 そこのまことはい碧弥三郎
 と彦二郎が實庵和尚の言
 動・彦二郎が實庵和尚の言
 いるからと私は見ている。

と開山は、實庵和尚の二世であ
 たら百五十年は、弘長寺開
 もある二十二年、弘長寺開
 一、旦途絶え、た開山百
 三、十年位後、中興開山
 生、實庵和尚の本師、あ
 興開山の次庵の二世であ
 たといふことになる。

「現当二世として」寄進
 する二と読むか、寄進
 当世であるか、寄進
 二進すあるか、寄進
 寄進違うる展開にむつて
 全進違うる展開にむつて
 しで全進違うる展開にむつて

痰齋氏、は成田(藤原)思
 末が、では、しな(藤原)思
 なるが、では、しな(藤原)思
 いれな、では、しな(藤原)思

③ 経筒を入れたと思われ
 る箇所が二箇所あり、それ
 の一箇所は、行方不明、と
 に弘長寺で製作された、と
 とを示す書き物はないが、
 筒でもあらなかったのでは
 も考えられなくはないが、
 出ない。



玄関の達磨像

義林と尚氣棟札のよ、
 れば、阿弥堂を建てたのよ、
 藩費、二見返り、住職、薰浦
 も、その見返り、職、能
 和、高、松平、か、能
 藩、主、お、松平、か、能

「性高松平の職、能
 性高松平の職、能
 性高松平の職、能
 性高松平の職、能

お、後、下、上、可、能
 お、後、下、上、可、能
 お、後、下、上、可、能
 お、後、下、上、可、能

十、六、個、作、り、全、一、ノ、宮
 十、六、個、作、り、全、一、ノ、宮
 十、六、個、作、り、全、一、ノ、宮
 十、六、個、作、り、全、一、ノ、宮

に、行脚奉納されましたが、
 り、だ、め、炭、化、泥、埋、も、残、つ、お、い
 り、だ、め、炭、化、泥、埋、も、残、つ、お、い
 り、だ、め、炭、化、泥、埋、も、残、つ、お、い
 り、だ、め、炭、化、泥、埋、も、残、つ、お、い

④ その中の第四巻の裏に、
 「浄幸逆修」と書かれて
 いる。

あ、ま、で、い、歴、史、学、的、存、在、は、逆、修、塚、と
 行、は、仏、教、で、は、今、生、で、当、た、修
 り、前、だ、か、ら、で、あ、る、。

の、味、が、こ、め、ら、れ、て、い、な、い、意
 る、味、が、こ、め、ら、れ、て、い、な、い、意
 る、味、が、こ、め、ら、れ、て、い、な、い、意
 る、味、が、こ、め、ら、れ、て、い、な、い、意

解、積、い、て、私、は、逆、の、幸、逆、縁、修、省、か、の、間
 解、積、い、て、私、は、逆、の、幸、逆、縁、修、省、か、の、間
 解、積、い、て、私、は、逆、の、幸、逆、縁、修、省、か、の、間
 解、積、い、て、私、は、逆、の、幸、逆、縁、修、省、か、の、間

あ、道、順、は、真、の、出、家、者、の、名、前、ど、で
 あ、道、順、は、真、の、出、家、者、の、名、前、ど、で
 あ、道、順、は、真、の、出、家、者、の、名、前、ど、で
 あ、道、順、は、真、の、出、家、者、の、名、前、ど、で

う、か、は、不、明、の、域、を、出、な、い、旅、費、の、家
 が、道、順、が、で、き、る、資、産、を、だ
 出、す、こ、と、が、で、き、る、資、産、を、だ
 大、事、な、り、跡、継、ぎ、は、等、理、の、由
 息、子、を、亡、く、し、た、は、在、家、の、人
 ま、ま、出、家、(あ、く、し、た、は、在、家、の、人
 親、縁、に、よ、り、浄、土、に、行、く、を、
 う、の、大、罪、で、浄、土、に、行、く、を、
 う、の、大、罪、で、浄、土、に、行、く、を、
 う、の、大、罪、で、浄、土、に、行、く、を、



か、た、だ、当、時、の、流、行、で、あ、る、聖、行
 を、思、つ、つ、い、た、願、行、で、あ、る、
 悲、運、を、克、服、す、る、願、行、で、あ、る、
 思、い、たい、は、ど、う、し、て、も、そ、う

浄、幸、逆、修、と、い、う、美、運、の、い
 文、字、に、私、は、そ、う、悲、運、の、い
 ロ、マ、ン、を、一、人、感、じ、て、い、る、の、い

あ、道、順、は、真、の、出、家、者、の、名、前、ど、で
 あ、道、順、は、真、の、出、家、者、の、名、前、ど、で
 あ、道、順、は、真、の、出、家、者、の、名、前、ど、で
 あ、道、順、は、真、の、出、家、者、の、名、前、ど、で